

総合教育 政策局

学校教育・社会教育を通じた教育政策全体を総合的・横断的に推進し、生涯学習の理念に基づく社会の実現を目指す

総合教育政策局
教育人材政策課改革推進係

河合 徹也

Kawai Tetsuya

令和 2 年 入省 (行政)
令和 2 年 4 月 文部科学省大臣官房総務課
審議班
令和 4 年 4 月 同 総合教育政策局教育人材政策課
教員免許企画室
令和 5 年 4 月 現職



十分な指導体制の確保に向けて

仕事の紹介

教師はどの時代においても公教育の要であり、子供たちの人生を変える存在であり、子供たちに寄り添いながらその成長を実感することができる、他では得難い経験ができる魅力的な職業であると考えています。そのため教育人材政策課としても、教職が安心して目指せる魅力あるものとなるよう取り組んでいます。

その中で、私が所属する係では、教師需要に応えるための「なり手の確保」に向けた取組と、子供たちがより質の高い教育を受けるための「教師志願者の増加」に向けた取組、両方の施策



教師の魅力発信イベントの様子

に取り組んでいます。具体的には、「なり手の確保」として、教育委員会、大学と連携した、教師の魅力を発信するイベントや、教職に就いていない外部人材の発掘支援、「教師志願者の増加」として、各教育委員会が実施する教員採用選考試験の工夫改善を促進するため、試験自体の在り方の検討や教育委員会の負担軽減について、各教育委員会、大学と意見交換を行い、教師志願者の増加に向けた取組を進めています。

あなたの可能性が
教育現場を
輝かせる。

試験日 <令和5年>
幼稚園 6月16日 小学校 6月16日 9月28日
高等学校 6月16日 9月29日

試験内容 試験会場に関する詳細や試験への応募及び受検、実務的な能力に関する事項について試験を実施します。

試験場情報 試験会場案内 試験場センター 試験場情報センター 試験場情報センター 試験場情報センター

お問い合わせ先 shiken@ml.nits.go.jp
https://www.nits.go.jp/shiken/

文部科学省 国土交通省 国土院 国土交通省 国土院 国土交通省 国土院

教員資格認定試験ポスター

文部科学省で働く魅力

文部科学省が担う教育分野は、他省庁と異なり人づくりです。進めている施策が全国の学校現場、ひいては未来の日本の教育に影響を与えかねない考えると、大きな責任とともにやりがいを感じます。特に、業務の一つである中央教育審議会の運営は、日本の教育の礎を築くものであり、他にはない緊張感をもって進めています。

業務や研修の一環で学校現場を訪れることもありますが、取り組む施策が目前にいる子供たちにとって良いものなのかと考えると、より業務の重要性を実感することができます。

他省庁の取組も同様に日本の未来を創るものではありませんが、人づくり・人を育てることは、文部科学省でしか味わえない魅力だと感じます。



学校現場での講演の様子

志望動機と現在

児童虐待やいじめの報道を見聞きし、行政の立場から児童虐待やいじめの減少、防止に尽力したいと考えていました。また、私自身、スポーツと共にあった学生生活を過ごしていたため、スポーツ振興にも興味があったところ、どちらの業務にも携わることができる文部科学省を志望しました。

現在携わっている教師の確保、質の向上を目的とした日々の業務は、子供たちにとってより良い学校生活を送る環境を作りたい、という志望動機ととても密接した業務となっています。実施する施策は教育現場や子供たちの学習環境にもつながっていくものであり、その分責任は重大ですが、やりがいをもって日々の業務に臨んでいます。

志望者へのメッセージ

進路を考えるにあたり、自分自身にとって何が一番の関心事項なのか、得意分野なのか、悩まれている方もいらっしゃるかと思います。文部科学省が担う分野は、「教育」「科学技術・学術」「スポーツ」「文化」という4つの分野に大きく分かれており、各分野の中でも専門とする事項は多岐にわたります。関心事項を絞り

1週間のスケジュール

月 中央教育審議会の運営調整

次回の審議会に向け、資料の作成、運営面で委員と打合せを行い、審議会が円滑に進むよう調整を行います。

火 調査の公表に向けた確認

例年公表している調査結果について、データの集計、精査を行います。回答元の教育委員会と、過去のデータを踏まえながら回答の確認作業も行います。報道につながる調査も含まれるため、繰り返し確認作業を行います。

水 会議の運営調整

教職の魅力発信イベントの開催に向け、教育委員会や大学から取組についてお話を伺います。政務三役にもご出席いただくこともあるため、密に運営調整を行い、YouTube等へのライブ配信に向けたテレビ制作業者との打合せも行います。

木 新規取組に向けた打合せ

今後の取組に向け、上司を含めて意見交換を行います。各々の意見を出し合うことで内容の充実を図ります。

金 委託事業についての意見交換

一部の教育委員会に対し、教員採用選考試験問題の提供をするため、問題や回答の精査、方針について、委託業者や教育委員会と意見交換を行います。受験生の目線に立った問題作成や教育委員会への提供方法について、細かく認識を合わせます。

切ることがないことは、将来の選択肢を広げる上で、とても良かったと自分自身も感じています。また、皆さんの持つ強みを、様々な分野で発揮することができる職場だと思います。

様々な分野に携わることもできる文部科学省が、皆さんが進路を考える上で選択肢の一つになれば幸いです。

初等中等 教育局

全ての子どもたちに「生きる力」を育む教育を実施するとともに、幼稚園から高校の教育水準の維持・向上を図る

初等中等教育局
教育課程課教育課程第二係

足立 拓也

Adachi Takuya

平成 30 年 入省 (行政)
平成 30 年 4 月 文部科学省大臣官房
総務課審議班
令和 2 年 4 月 文化庁著作権課
令和 4 年 4 月 現職



理数好きな子供と科学技術人材を育成するために

仕事の紹介

文部科学省では、どこにいても一定の教育水準を確保するために、各学校が教育課程を編成する際の基準として「学習指導要領」を定めており、令和2年度より順次、現行の学習指導要領の下での学習が始まっています。教育課程課では、その学習指導要領が円滑かつ着実に実施されるよう周知を図ること等を通じて、子どもたちの学びを支援する業務を担当しています。

その中で、私の所属する係では、算数・数学、理科に関する教育の改善・充実を通して、理数に興味関心を持つ子供を



指導主事連絡協議会の様子

増やすための取組や科学技術人材の育成のための取組等を行っています。例えば、学習指導要領の趣旨を踏まえて学校現場において適切に教育活動が行われるよう、各都道府県・政令指定都市等の担当者向けの「指導主事連絡協議会」等の運営業務や、将来社会を牽引する科学技術人材を育成するために「スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 事業」に関する業務等を行っています。



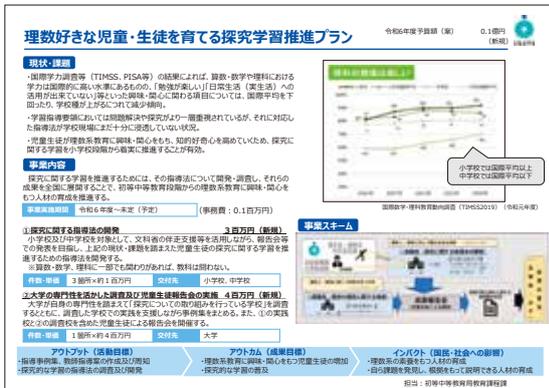
生徒研究発表会の様子

SSHパンフレット表紙

文部科学省で働く魅力

現代の社会で問題・課題となっていることに対して、スピード感を持ち解決策を打ち出せることが一つの魅力だと思います。例えば、国際学力調査等において、算数・数学や理科における学力は国際的に高い水準にあるものの、興味関心等に関わる項目は、国際平均を下回っており、改善のための検討が必要であるという結果が出たことを踏まえて、理数好きな子供を増やすために令和6年度から「理数好きな児童・生徒を育てる探究学習推進プラン」という新たな事業を実施します。

また、文部科学省は現場から離れているためなかなか現場の声が届かないのではないかと考える方もいると思います。実際には、学校視察に行ったり、学校の担当者同士の交流会に参加し先生方と意見交換をするなど、現場の声を聞き、それを踏まえて施策の方向性を検討するなど、現場の困りごとに耳を傾けながら施策を推進しています。



理数好きな児童・生徒を育てる探究学習推進プラン

志望動機と現在

誰もが夢や目標に向かって何事にも挑戦でき、失敗したとしても再チャレンジできるような環境づくりに携わりたいという思いを持ち、就職活動をしていました。そして、文部科学省は、教育、科学技術・学術、スポーツ、文化といった分野を所掌しており、夢や目標の達成に向かって前向きに頑張っている方々をサポートできるツールを多く持つ省庁だと考え志望しました。現在携わっている理数教育の充実に関する業務は、理数に興味関心を持つ子供を増やし、科学技術人材として将来活躍したいと考える子供たちをサポートすることを目的としており、入省当初の思いを忘れないようにしながら前向きに日々の業務に取り組んでいます。

志望者へのメッセージ

文部科学省は様々な分野を所掌している省庁ですので、興味のある分野が1つでもあれば就職先の候補の1つとして検討してほしいと思います。私は、教育とスポーツに特に興味があり文部科学省に入省しましたが、著作権に関する担当になってからは文化にも興味を持つようになるなど、視野を広げることができました。また、第一子が誕生した際に、職場の上

スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業の年間スケジュール

1 SSH生徒研究発表会の準備・開催 (2023年4月~8月)

毎年8月に、SSHに指定されている学校の代表生徒が集結し、日頃の課題研究の成果を発表する会を開催しています。そこに向けて、科学技術・学術政策局や国立研究開発法人科学技術振興機構と連携しながら準備をします。

2 SSH中間評価の実施 (2023年9月~10月)

SSHに指定されて3年目の学校について、外部有識者による評価を行い、その時点における研究開発等の内容を各学校において見直す機会として実施しています。

3 SSH新規採択校の公募・審査 (2023年10月~2024年2月)

公募に当たっては、学校や教育委員会等に対して公募説明会を開催し、申請に当たっての留意事項等を周知しています。また、新規採択校を選定するために、学校等から提出のあった申請書類を基に、外部有識者によるヒアリングや書面による審査を行います。

4 SSH新規採択校の公表 (2024年3月)

4月からSSHとしての教育活動が実施できるよう、どの学校を採択するか外部有識者に決定いただき、3月中下旬に学校等に対して結果を公表します。

司や同僚にご理解・ご協力をいただき、3ヶ月間の育休をいただきました。霞ヶ関は働き方改革が進んでいない印象をお持ちの方もいると思いますが、文部科学省の働き方はそのようなイメージとは変わりつつあります。

少しでも文部科学省について興味を持っていただき、文部科学省を1つの志望先としていただけたら嬉しいです。

高等教育局

大学・高専等に対する支援や高度専門人材の養成、学生の修学支援などを通じて、高等教育の振興を推進

高等教育局
私学部参事官(学校法人担当) 付
学校法人経営指導室経営指導第二係主任

山本 悠貴
Yamamoto Yuki

平成 29年 入省(行政)
平成 29年 4月 文部科学省大臣官房
会計課総括予算班
平成 31年 4月 同 大臣官房会計課総務班
令和 元年10月 スポーツ庁競技スポーツ課
令和 4年 4月 同 高等教育局私学部
参事官(学校法人担当) 付
令和 5年10月 現職



学校法人の経営改善・経営力強化に向けて

仕事の紹介

18歳人口の減少等を背景として、私立大学等を設置する学校法人の経営環境は厳しい状況になりつつあります。そのような中で、各学校法人には経営基盤の一層の強化や、公共性の観点からの適正な運営が求められており、私が所属する学校法人経営指導室では、学校法人の経営改善や経営力強化、管理運営上の課題解決に向けた指導・助言を行っています。

その中で、私は経営状況が悪化傾向にある学校法人に対する経営指導を主に担当しています。特に経営状況が厳しい法人に対しては、経営改善に向けた計画の作成を求め、日本私立学校振興・共済事業団と連携しつつ、外部有識者を交えたヒアリングで改善状況や計画の実施状況を確認していきます。客観的な視点から法人の経営状況を分析し、課題や問題点を指摘することは簡単なことではありませんが、それが私立大学等の教育研究の質向上や学生保護につながるため、責任感を持って取り組んでいます。



経営に課題を抱える学校法人に対する取組

日本私立学校振興・共済事業団
「学校法人の経営改善等のための
ハンドブック《第1次改訂版》」
より掲載

文部科学省で働く魅力

文部科学省は教育、科学技術・学術、スポーツ、文化と幅広い分野を扱いますが、いずれも未来や充実した生活への礎となるものであり、それらに関する全国横断的な取組や方針策定、大規模なイベント等に携われることは大きな魅力と感じています。これまでどの部署においても印象に残っている仕事がありますが、その中でも特に、スポーツ庁で東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた業務の一端を担えたことは、貴重な経験でした。

現部署では、学校法人の理事長など、私立学校における様々な分野の第一人者の方々と仕事をする機会に恵まれています。また、これまで所属してきた部署には、民間や専門的知見を有する関係機関等からの出向者の方等も在籍していました。そのような方々から日々新たな知識を習得することで自身の成長を実感しており、仕事のやりがいにもつながっています。



打ち合わせの様子

志望動機と現在

幼い頃からスポーツや文化芸術活動に取り組んできたことで、様々な経験や学びを得ることができ、人生がより豊かになったと考えています。同じような経験をより多くの人にしてもらいたいと思い、国全体の奉仕者としての立場で、それらに関する環境の構築に携わりたいと考え、文部科学省を志望しました。

大臣官房での業務を通じて、文部科学省が担う分野全体を広い視点で見た後、関心があったスポーツ分野に携わらせていただき、志望当時の希望が叶った一方で、経験不足も実感したところです。入省以降、国の更なる発展に欠かせない高等教育分野に魅力を感じ、現在は学校法人の経営基盤の強化に取り組んでいます。

文部科学省が担う各分野は一見趣が異なりますが、国の未来を担っている点で結びつきや共通の課題があると感じており、分野を問わず様々な経験を積みながら、それぞれに貢献していきたいと考えています。

志望者へのメッセージ

入省案内をご覧いただいている方の中には、文部科学省を志望するか迷われている方もいるかと思います。実は私自身も文部科学省を志望するか迷っていたうちの一人でしたが、業務説明会や座談会で実際に働かれている方々のお話を伺う中で、どの方も国や子供の将来のために誇りと使命感を持ち、真剣に働かれていた姿に圧倒されたことが、

学校法人運営調査の年間スケジュール

学校法人の管理運営組織や財務状況の実態を調査し、必要な指導・助言を行っています。

1 調査・ヒアリング法人等の選定 (4月~7月)

経営が悪化傾向にある法人や過年度から継続して指導中の法人を中心として、今年度の調査・ヒアリング等の対象法人を委員会にて選定します。

2 法人の経営状況の分析、論点整理 (7月~9月)

法人の財務諸表や提出資料から、財務状況の分析や経営上の課題・問題点の抽出を行い、調査・ヒアリング等における論点や確認内容を整理します。

3 調査・ヒアリング等の実施 (9月~12月)

整理した論点などに基づき、調査・ヒアリング等を実施します。私立大学等の現地に赴く場合もあれば、オンラインで行う場合もあり、現地に赴く場合は学生へのインタビュー等も行います。

4 報告書作成、指導事項等の伝達 (12月~3月)

調査・ヒアリング等の結果から作成した報告書を基に、委員会にて指導事項等を審議し、決定した内容を法人へ伝達します。

志望の決め手のひとつになりました。

文部科学省はこれからの社会を切り拓く上で重要な役割を担っており、一朝一夕ではいかないことばかりですが、国全体を見据えた立場から、未来に向けた課題に前向きに向き合うことができます。皆さんも国のより良い未来に向けて一緒に働いてみませんか。

科学技術・ 学術政策局

科学技術・学術に関する
基本的な政策の企画・立
案や推進により、我が国
の研究力の向上を目指す

科学技術・学術政策局
参事官（国際戦略担当）付
国際交流戦略係

菊間 由佳

Kikuma Yuka

令和 2 年 入省（行政）
令和 2 年 4 月 文部科学省国際統括官付
令和 4 年 4 月 現職



変化の激しい世界における科学技術を通じた国際交流

仕事の紹介

参事官（国際戦略担当）付は、科学技術の国際案件のとりまとめをしており、国際的な人材・研究ネットワークの強化、国際共同研究の推進、科学技術外交の推進、科学技術分野における経済安全保障の推進などを所掌しています。私はその中でも特に、欧州地域各国との科学技術協力について担当しています。科学技術を担当する省庁や大使館、研究支援機関など、様々な関係者の方たちと、相手国との科学技術協力の進め方について意見交換や議論をしています。また、国際会議やイベントに対応することもあります。

地政学的変化の影響もあり、日本は、国際共同研究の相手国として多くの国から高い期待を向けられており、欧州各国から様々な分野での協力打診や、各国要人の文部科学省幹部への表敬訪問依頼が来ます。協力が形になるように、また良好な関係性が今後も継続していくように、日々調整業務等に取り組んでいます。



デンマークとのバイ会談の様子



日EU科学技術協力合同委員会

志望動機と現在

学生時代に、海外で現地の子供たちに日本語や日本文化を教えるプログラムに参加していた経験から、日本語教育や国際交流、国際理解教育に興味を持ち、文部科学省を志望しました。

プログラムに参加していた当時は、言語や文化を通じて交流していましたが、現在の部署では、国際共同研究の促進や人的ネットワークの強化など科学技術を通じた国際交流を担当しています。気候変動等の環境問題や世界各地での紛争など、科学技術をめぐる国際的環境は大きな変化を迎えており、科学技術における国際活動を推進する重要性を、業務に取り組み中で実感しています。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、研究における国際交流・協力が困難となりましたが、オンラインも上手く活用しながら対面での交流も徐々に回復しています。ポストコロナでの協力関係の構築は、新しいことも多くあり、日々の業務の中で悩むことや苦労することもありますが、責任感・達成感を感じながら業務ができる環境にやりがいを感じています。

年間スケジュール例 (2023年)

- 1 **科学技術協力合同委員会への参加**
科学技術政策や科学技術協力の現状と今後の方向性について各国と議論を実施。外務省が会議の運営等を行います。文部科学省も科学技術担当省として議論に参加します。
2023年の開催（欧州）：1月スイス、2月ドイツ、6月チェコ、11月英国、12月EU
- 2 **国際会議、表敬訪問への対応（5月）**
G7サミット、関係閣僚会合が日本で開催され、来日した各国要人と文部科学大臣等との面会を調整しました。
- 3 **科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム（STSフォーラム）（10月）**
毎年京都で開催されるフォーラムに、世界中から科学者、政策決定者等が集まります。この機会に、各国要人や研究機関関係者等との会談やイベント等の調整を行います。

平成 25 年 入省（電気・電子・情報）
 平成 25 年 4 月 文部科学省生涯学習政策局参事官付
 平成 25 年 7 月 同 生涯学習政策局情報教育課情報教育振興室
 平成 26 年 4 月 同 生涯学習政策局情報教育課
 平成 27 年 4 月 内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター
 平成 27 年 7 月 文部科学省大臣官房政策課評価室
 平成 29 年 4 月 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
 経営企画部総括グループ
 平成 30 年 9 月 内閣府政策統括官（原子力防災担当）付
 参事官（地域防災・訓練担当）付主査付
 令和 元年 7 月 同 政策統括官（原子力防災担当）付
 参事官（地域防災担当）付主査付
 令和 元年 10 月 同 政策統括官（原子力防災担当）付
 参事官（地域防災担当）付主査
 令和 2 年 8 月 同 政策統括官（原子力防災担当）付
 参事官（総括担当）付主査
 令和 3 年 4 月 文部科学省大臣官房会計課第二予算班第三係長
 令和 5 年 4 月 現職



科学技術・学術政策局
 人材政策課人材政策推進室
 基礎人材推進第三係長
杉崎 太祐
 Sugizaki Taisuke

未来を創る、君の手で。科学技術・イノベーションの世界へ、一緒に飛び込もう！

仕事の紹介

人材政策課では、科学技術・イノベーションを担う多様な人材の育成や活躍促進を図るため、博士後期課程学生を含む若手研究者に対する経済的な支援や、次代の科学技術・イノベーションを担う人材の育成、科学技術コミュニケーションの推進、女性研究者の活躍促進に向けた取組等を実施しています。

私は主に、将来の学術研究を担う優れた若手研究者を養成・確保するために創設された日本学術振興会（JSPS）特別研究員制度や、研究者等のキャリア形成を支援するため科学技術振興機構（JST）が運用している研究人材のためのキャリア支援ポータルサイト「JREC-IN Portal」に関する取組等に携わっています。

仕事においては、大学等の関係者や第一線で活躍する研究者と対話する機会も多く、現場での課題や国に求められていること等を直接伺うことができ、文部科学省ならではの取組を進めることができていると感じています。



JSPS 特別研究員制度（PD、DC）
 募集ポスター



研究人材のキャリア支援
 ポータルサイト「JREC-IN Portal」
 リーフレット表紙

文部科学省で働く魅力

文部科学省は、教育や科学技術、スポーツ、文化等、幅広く多岐にわたる分野の仕事に携わることができる希少な省庁の一つだと思います。私がこれまでに仕事で関わってきた

分野だけでも、情報教育やセキュリティ、独立行政法人制度、医療研究、原子力防災、予算・会計、人材育成等、多種多様な分野に関する仕事に携わることができました。配属先が変わるごとに未知の世界に飛び込むような経験をし、知識を深める楽しさや新しい人々との出会いを体験でき、自分自身の視野がどんどん広がっていくのを感じています。

その一方で、国会対応や、事業の検討から予算要求や編成、執行といったプロセスのように、どの配属先でも共通する仕事もあり、これまで積み重ねてきた知識や経験などを活かすこともできます。

今後も、まだ携わったことがない分野にも積極的にチャレンジして、未知の世界に飛び込んでいきたいと思っています。

年間スケジュール例

事業の検討から予算要求や編成、執行まで

- 1 既存事業の見直しや新規事業の検討（2023年1月～5月）**
 喫緊の課題や様々なステークホルダーからの要望、既存事業の執行状況等を踏まえ、次年度にどのような事業を実施するのか検討します。
- 2 概算要求（2023年6月～8月）**
 次年度に実施したい事業について、事業内容や必要な予算を関係部局等とも調整し、概算要求として財務省へ提出します。
- 3 予算編成（2023年9月～12月）**
 要求した予算について、その事業内容や予算の内訳などを財務省に説明、折衝を行い、年末に予算案として閣議決定されます。
- 4 国会審議・予算成立（2024年1月～3月）**
 閣議決定された予算案は国会に提出され、審議を経て次年度予算が成立します。
- 5 事業の実施・執行（2024年4月～）**
 成立した予算に基づいて事業を実施します。実施に際しては、効果的な事業の執行に努めています。

研究振興局

基礎研究をはじめとした
研究開発の推進や大学
研究基盤の整備、学術振興
施策の推進を図る

研究振興局振興企画課奨励室
発明奨励・表彰係

藤本 童子

Fujimoto Touko

令和3年 入省（農学）

令和3年4月 文部科学省研究開発局
参事官（原子力損害賠償担当）付

令和4年4月 現職



表彰を通じて日本の研究力向上に寄与する

仕事の紹介

文部科学省では、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた方について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる研究者等の意欲の向上をはかることで、日本の科学技術水準の向上に寄与することを目的として、科学技術分野の文部科学大臣表彰を行っています。

振興企画課奨励室では、文部科学大臣表彰の受賞候補者の募集から受賞者の決定、表彰式の開催までの業務を1年かけて行っています。

文部科学大臣表彰には、毎年2,000件以上の応募があります。文部科学大臣表彰の受賞者は、文部科学省に設置された審査委員会における審査・選定を経て決定されます。奨励室では、審査委員に公平な審査を行っていただけるように文部科学大臣表彰へ提出された書類の確認作業や審査委員に審査いただく資料の作成、審査会議の運営等を行っています。



令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 表彰式

文部科学省で働く魅力

文部科学省では、幅広い分野の研究を支援しているため、様々な研究に触れることができるのが魅力の一つだと思います。

現在所属している振興企画課奨励室では、文部科学大臣表彰への全国から様々な研究・開発等の応募をいただきます。応募書類からさまざまな分野の研究に触れることができ、とても楽しく仕事をしています。また、文部科学省には明るく前向きな仕事が多いことも魅力だと思います。現在携わっている表彰業務では、文部科学大臣表彰の受賞者をホームページで公表すると、受賞者の所属機関等のホームページで受賞者御本人のコメントを掲載いただくことがあります。受賞者の方のコメントから本賞を受賞したことをとても喜ばれていることがわかったときには、本表彰に携わってよかったとやりがいを感じます。



令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 受賞冊子

志望動機と現在

私が文部科学省を志望した理由は2つあります。1つ目は、学生時代に研究室で研究活動をしている際に、研究者の雇用の不安定さや、研究費の不足等を見聞きしたことで、研究者の働く環境を良くしたいと思ったことです。2つ目は、私は研究室や学会等で研究者の方から楽しそうにご自身の研究の話聞くことが好きで、文部科学省であれば、研究者の方と関わる仕事ができると考え、文部科学省を志望しました。

現在は、文部科学大臣表彰業務に携わることで、全国からたくさんの方の研究内容が集まり、研究者の研究内容に触れることができとても楽しいです。また、応募書類の審査にあたって、研究者の方から意見をいただくこともあり、研究者の方と関わりがある仕事をする事ができています。

志望者へのメッセージ

入省前、文部科学省に関心を持っていたものの、私に仕事が務まるのかとても不安な気持ちがありました。入省1年目の頃、学生と仕事で環境が大きく異なることや仕事の責任の重さから、「働くって大変だな」と思ったことを覚えています。私は上司や同僚に恵まれ、どんなに小さなことでもわからないことや確認をした際には嫌な顔一つせずに教えてもらい、

年間スケジュール

文部科学大臣表彰受賞候補者の募集から
文部科学大臣表彰表彰式の開催まで

1 推薦要領の見直し・推薦依頼 (4月~5月)

都道府県、国公立大学、学協会等の推薦機関へ受賞候補者の推薦依頼を行います。少しでも多くの機関から推薦していただけるよう、前年度の応募期間中の問い合わせ内容等を踏まえて賞の推薦要件や記載要領等が記載されている推薦要領の見直しを行い、推薦機関にとってわかりやすい推薦要領の作成を心がけています。推薦依頼後は、推薦に関する問い合わせ等に対応します。

2 書類審査 (8月~12月頃)

7月中旬から推薦依頼を締め切ります。締切後は、公平な審査が行われるよう1件1件書類の形式的な確認を行い、審査委員に審査いただくための資料の作成や審査依頼を行います。

3 受賞者の審査・選定 (1月~2月頃)

審査委員会を複数回開催し、受賞者を審査・選定します。

4 受賞者の決定・表彰式 (3月~4月)

文部科学大臣表彰の受賞者決定後、受賞者を4月上旬に発表し、科学技術週間中に表彰式を行います。表彰式では、大臣から代表受賞者へ直接賞状が授与されます。

助けてもらいながら、現在まで様々な経験を積むことができました。

文部科学省では様々な分野を所掌しています。入省してからも、こんな部署があったのか、こんな仕事もあるんだ、と発見が多く、飽きることがないところがいいところだと思います。みなさんの選択肢の一つに文部科学省を入れていただけると幸いです。

研究開発局

宇宙、原子力、海洋や環境
エネルギー、フュージョン
エネルギー、地震・火山・
防災等の国家規模の研究
開発を推進する

研究開発局
環境エネルギー課総括係長

戸辺 弘亮

Tobe Kosuke

平成 26年 入省 (物理)
平成 26年 4月 文部科学省研究開発局開発企画課
平成 27年 6月 同 研究開発局地震・防災研究課
平成 29年 5月 同 研究開発局原子力課
平成 30年 7月 同 研究開発局原子力課専門職
平成 31年 4月 同 科学技術・学術政策局研究開発基盤課
量子研究推進室機構・総括係長
令和 3年 8月 同 研究開発局原子力課専門職 (原子力留学)
令和 4年 7月 同 研究開発局環境エネルギー課専門職
令和 5年 6月 現職



新たな時代の社会変革「グリーントランスフォーメーション(GX)」

仕事の紹介

我が国は、2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにする「カーボンニュートラル (CN)」を達成することを宣言しました。これまでCNへの貢献は企業や個人のコストを含む負担を伴う取組が多かったと言えます。グリーントランスフォーメーション (GX) とは、温室効果ガスの排出量削減を経済成長の阻害要因ではなく成長の機会ととらえ、排出削減



FCEV (燃料電池自動車) MIRAI

と経済成長の両立の実現を目指していく考えです。環境エネルギー課では、グリーントランスフォーメーションに資する半導体、蓄電池、水素等の革新的技術のほか、その政策の基礎と

なる気候変動予測に関する研究開発の支援等を行っています。

私は、環境エネルギー課の総括係として主に課全体の研究開発等に関わる予算の調整や国会対応等の業務を担当するほか、GX技術担当として水素に関わる研究開発事業の進捗に関わる管理等の業務を行っています。総括という日々の課の全体を俯瞰する視点に加え、事業担当という個々の技術に着目したミクロな視点の両方が求められます。



文部科学副大臣視察への随員 (筆者左から2人目)

文部科学省で働く魅力

文部科学省は、教育であれ科学技術であれ「未来への投資」に携わる省庁です。事業を立ち上げる際には、10年後にどのような未来になっているか、その絵姿をしっかりと描き、そこまでのロードマップを研究開発方針に反映させなければなりません。私は、水素に関する研究開発プロジェクトを文部科学省で初めて立ち上げました。研究開発方針の策定にあたってはアカデミアや産業界からたくさんの意見をヒアリングしました。また、10年後には我が国が水素製造や燃料電池分野で世界をけん引しているビジョンを浮かべ、「もしかしら、ここで決めた方針によって10年後世界がガラッと変わっているかもしれない、いや、きっと変わって



水素事業に関する講演会にて

いる」、そんな思いで具体的な道筋を描いたつもりです。こうした政府の方針や計画等、今後の日本の未来を左右するダイナミックな政策の意思決定に携われることが、政策官庁である文部科学省の魅力であり特徴であると感じています。

志望動機と現在

私は、大学院の専攻が宇宙物理学という分野でアインシュタインの一般相対論を用いて理論研究を行っていました。そんなところから「基礎研究の振興や学術に関わる人材の育成」に携わりたいと考え文部科学省の門をたたきました。

役所では大体2年程度で異動します。私は、これまで幸運にも防災、原子力、量子、そして環境エネルギーという様々な分野での研究の最前線やそこに携わる研究者と触れ合うことができました。どの分野においても必要な資源や人材は足りておらず、文部科学省が取り組まなければならない課題はたくさんあると感じ、現在では、その時その時に携わった領域の振興や人材育成について精一杯取り組むことを心がけています。

今後のビジョン、
やってみたいこと

私の将来の夢、いや、役人人生での夢は「GAFAMのような世界をけん引するトップ企業を生み出す」ことです。この夢を叶えるために文部科学省でできることはたくさんあります。種となりうるような様々な分野での研究開発の支援、スタートアップ等の新興企業の立ち上げに関わる支援、将来の一流人材を生み出すための博士課程等学生への支援等の科

具体的な業務のスケジュール

革新的GX技術創出事業 (GteX) (R5新規事業)
立ち上げまでの道のり

- 1 研究開発の方向性の検討 (2022年2月~6月)**
カーボンニュートラルに関する国内外の政策・産業動向等を踏まえて特に重点的に検討すべき領域について、有識者による検討会を開き議論します。
- 2 予算要求 (2022年7月~12月)**
有識者の議論を経て研究開発の骨格を定め、概算の経費に落とし込んだうえで財務省に予算を要求します。
- 3 事業に関わる基本方針、研究開発方針の策定 (2022年12月~2023年3月)**
確保した予算を念頭に、今後10年間でやる研究開発の達成目標やその道筋、事業の実施方針等を様々な分野の有識者や関係省庁を交えて議論します。
- 4 資金配分機関による公募・審査 (2023年5月~9月)**
文部科学省が作成した基本方針・研究開発方針を基に資金配分機関である科学技術振興機構が公募要領を作成し公募を行い、その後審査します。
- 5 研究開発開始 (2023年10月)**
初めの構想から1年半以上たってやっと研究開発が開始します。長い道のりでしたが、むしろここはスタート地点です。
- 6 研究進捗の管理、関係省庁との連携 (2023年10月~)**
研究開発成果が予定通り進捗しているかの確認、関係省庁と出口をどのようにつなげていくかの議論を行います。研究開発成果がしっかりと国民に還元されるようしっかりと進めていかなければなりません。

学技術、教育の様々な観点で貢献できます。スポーツや文化も含め文部科学省の取組は全て「未来への投資」そのものです。それはすぐには芽が出ないかもしれませんが未来を想い、突き進み続けることこそが重要であり楽しみでもあります。私たちと共に理想とする未来へ向かって一緒に突き進むことができる仲間をお待ちしています。

スポーツ庁

スポーツを通じて「国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む」ことができる社会の実現を目指す

スポーツ庁競技スポーツ課整備係

唐澤 杏子

Karasawa Kyoko

平成 30 年 入省（行政）

平成 30 年 4 月 文部科学省初等中等教育局
教科書課

平成 31 年 4 月 同 総合教育政策局政策課

令和 2 年 4 月 同 大臣官房人事課計画調整班

令和 4 年 4 月 現職

世界で活躍するアスリートを支える

仕事の紹介

競技スポーツ課では、オリンピック・パラリンピック競技大会をはじめとする国際競技大会等で活躍するアスリートの育成・強化のための様々な支援を行っています。その中でも私が担当する整備係では、トップアスリートが集中的・継続的にトレーニング・強化活動を行うための中核拠点であるナショナルトレーニングセンター（NTC）及びスポーツ医・科学、情報等による研究、支援を実施する国立スポーツ科学センター（JISS）からなるハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）に関わる業務と、HPSCでは整備が困難なオリンピック・パラリンピック競技等について、全国の既存施設を競技別NTCに指定し、アスリートがより効果的なトレーニング・強化活動を実施できるような環境整備を担う業務に取り組んでいます。全国の競技別NTCを「NTC競技別強化拠点」と呼んでおり、令和5年4月1日時点で全国に44施設あります。



NTC競技別強化拠点指定施設一覧（令和5年4月時点）



村上市スケートパーク



大倉山ジャンプ競技場

文部科学省で働く魅力

私は1、2年目で教育分野に関わる「教師」、「生徒」を支える業務に、3、4年目では大臣官房人事課で文部科学省に勤務する「職員」を支える業務に携わり、現在「アスリート」を支える業務を担当しています。教師として活躍する友人や研修でお世話になった現役の先生方から「この政策はありがたかった」、「こういう取組をやってもらえたら助かる」といった意見をもらったことや、アスリートとして活躍する友人から、私の現在担当している業務について「この事業があるからこそ、日々トップレベルの練習ができてるので本当に感謝している」と言ってもらったこともあります。そのような言葉をもらったことで日々のモチベーションが上がり、やりがいを感じながら仕事に取り組みています。教育・スポーツ分野に加え、文部科学省には「研究者」を支える科学技術・学術分野、「文化人」を支える文化庁もあります。様々な分野の「人」を支える業務に携わることができるのは文部科学省だからこそだと思います。



大会視察時に課内メンバー、現地担当者

志望動機と現在

私自身、体を動かすことがとても好きで、今でも休日には趣味でスポーツをしています。大学では4年間、生涯スポーツに関わる分野を学んでいたためスポーツ行政に興味を持ち、スポーツ庁の業務に関心があったことから、文部科学省を志望しました。幸い、入省5年目でスポーツ分野に関わることができ、日々スポーツの前向きな面に触れつつも、実際業務に携わると、多くの課題を抱えていることを実感します。「仕事とは、課題を解決することである」と就職活動中に聞いたことがありますが、本当にその通りだと思いながら様々な課題解決に取り組んでいます。課題解決の先にあるスポーツ界のさらなる発展に少しでも携われたらと思い、日々奮闘しています。

志望者へのメッセージ

文部科学省では、若手職員の活躍機会を増やそうという動きが活発化しています。また最近では、コロナ感染拡大の時期を経たことで働き方が多様化した背景等から、「業務改善」が推奨されています。さらに、文部科学省で導入されている「Slack」では、毎日色々な情報が共有されており、若手も含めて知見や情報を気軽に発信できる機能だと感じます。

NTC 競技別強化拠点 機能強化事業の 年間スケジュール

1 委託契約締結 (4月)

委託先を決定し、1年間の事業計画を作成します。

2 問合せ対応 (5月~6月)

事業計画の内容についての問合せ、相談対応を行います。状況に応じて、オンライン打合せも実施します。

3 視察・意見交換 (7月~12月)

全国の拠点施設の視察や、施設担当者との意見交換を行い、現場の声を聞きながら課題解決に取り組みます。施設を実際に視察することで、資料からは読み取れない利点・課題が見えてきます。

4 額の確定 (3月)

事業が完了すると、完了報告書が提出されます。計画通りに事業が実施されたかチェックします。



味の素ナショナルトレーニングセンター
屋内トレーニングセンター・イースト

文部科学省の魅力は、教育、科学技術・学術、スポーツ、文化という、多岐にわたる所掌の業務に携われることだと思いますが、働き方が多様化し業務改善にも前向きなこと、若手でも活躍できる機会が多いことも、同じくらい魅力的だと感じます。様々な魅力に溢れた文部科学省で、一緒に働いてみませんか。

文化庁

日本の文化芸術を世界に、そして次の世代へと伝えていく

文化庁著作権課
国際著作権海外協力係

藤原 七海

Fujiwara Nanami

令和 2 年 入省 (行政)

令和 2 年 4 月 文部科学省研究開発局
開発企画課

令和 4 年 4 月 現職

日本コンテンツの権利を守るために

仕事の紹介

著作権課では、著作権法・その他関連法令の整備、著作権教育や普及啓発、海外における著作権侵害（海賊版）対策、国際的なルール作りのための議論への参画などを行っています。

私が所属する海外協力係では、近年のデジタル化・ネットワーク化の進展により、著作権を侵害したコンテンツが国境を



第17回日韓著作権協議の様子

越えて広がってしまうという事態に対応すべく、海外、特にアジア・太平洋地域の途上国における著作権保護の推進のための著作権制度整備支援と海賊版対策の大きく2つの事業を実施しています。具体的には、日本コンテンツの流通が多い国の外国政府と政府間協議の実施や、国内外に向けた著作権の普及啓発活動、国内権利者の方の権利行使の手助けをするため情報提供等を実施しています。海賊版対策は関係省庁や民間団体等との協働した取組が必須であり、様々な関係者と連携をしながら業務を進めています。

著作権侵害でお困りの方へ！
文化庁にご相談ください。

文化庁では、令和4年6月30日に、海賊版による著作権侵害の相談窓口を開設しました。相談窓口では、権利者等からの著作権侵害に関するご相談を弁護士が無料で受け付けます。インターネット上で個人で作品を販売しているクリエイターの方や、コンテンツ企業の方、代理人弁護士等、どなたからでも相談可能です。

【海賊版対策情報ポータルサイト】内、相談窓口ページからご相談ください。

詳しくは 文化庁 海賊版対策 で検索！

まずは相談！

海賊版による著作権侵害の相談窓口ポスター

困難を乗り越えて得たこと

私がこれまでで一番困難だった業務は、令和4年度に開設した海賊版による著作権侵害の相談窓口の周知活動です。本相談窓口は主に個人クリエイターを対象としていましたが、企業ではなく個人に向けて周知を行うのが国際著作権室として初めてのことで、全てが手探り状態でのスタートとなりました。

对企业とは違うアプローチをしなければならないと考え、関係者からの協力も得ながら上司と案を出し合い周知計画を作成していきましました。SNS等での周知はもちろん、関係団体と協働したニコニコ生放送での特別番組の実施や、文化庁として初めてとなるCOMITIA（自主制作漫画誌展示即売会）へブース出展も行いました。

前例がなく模索しながらの作業となったため困難な点も多かったですが、入省3年目（当時）の私の意見もどんどん取り込んでもらえて、自分の意見が国の事業として反映されていくことの楽しさを学びました。他の業務においても既存の概念にとらわれず、自分なりの見解やアイデアはたとえ小さなことでも積極的に提案するようにしています。



COMITIA146での文化庁ブース

志望動機と現在

私は大学・大学院時代に舞踊教育学を専攻しており、芸術を活用した創造性を育む教育に関心があつたことから、文化にも教育にもどちらにも携わることができる文部科学省への入省を志望しました。

現在は、著作権課の中でも主に海外の方々に関わる業務に携わっています。入省前は、国際的な業務に携わるとは想像もしていませんでしたが、文化の違う外国の方とのコミュニケーションの難しさや、国を越えて協力できることの素晴らしさ等をもつて学び、国際的な業務へ携わることの面白さを感じるようになりました。

文部科学省では、私が入省前に考えていたよりも多くの分野に携わる機会があり、日々自分の知見や興味関心が広がっていくことに楽しさを感じています。

志望者へのメッセージ

私は入省前、国の業務は規模が大きすぎて自分の考えが入る余地なんてないのではないかと考えていました。実際に業務を行ってみると実は真逆で、若手の意見も通りやすく、積極的に上司に意見を言える環境が整っています。だからこそ、まず自分の考えを提示しないと業務は始まりません。現在の課題や事業の問題点を自分なりに分析し、実行計画案を作

海賊版対策事業（海外における著作権普及啓発）の年間スケジュール

1 方針の協議・委託契約締結 (2023年4月～6月)

昨年度の事業の結果を踏まえ、事業内容を検討・計画します。委託事業者を選定し、委託事業者からの事業提案を元に協議を重ねながら事業計画を作成します。

2 普及教材作成 (2023年7月～11月)

海外向けに、著作権を守ることの重要性について学ぶことができる教材を作成します。この際、多く国で使用できる内容となるように留意します。

3 教材の展開 (2023年12月～2024年2月)

海外でのジャパンコンテンツイベント等にブースを出展し、作成した教材を展示・配布します。また、海外の政府機関に教材を提供して自国での活用を促したり、作成した教材をSNS等で全世界に展開したりします。



マレーシアComicFiesta2023での文化庁ブース

4 結果とりまとめ (2024年3月)

事業の結果を振り返り、反省点等を検討し取りまとめを行い、翌年度の事業方針に盛り込みます。

成した後、係内で協議を重ねながら検討し、自分たちの手で実行していきます。もちろん責任も大きく、プレッシャーを感じることもありますが、その分達成感もものすごく大きいです。

文部科学省の業務に興味を持たれている皆さんにも、自分の考えが国の事業に反映されることの楽しさを是非体感してほしいです。いつか皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。

大臣官房

文部科学省全体の政策の
総合調整を担う舵取り役

国際課国際協力企画室
人物交流係

野内 瑛里

Yanai Eri

令和 4 年 入省 (行政)
令和 4 年 4 月 現職



国際社会と連携し、教育課題の解決を目指す

仕事の紹介

国際課は、文部科学行政における国際交流や国際協力に関することを担当しています。具体的には、G7教育大臣会合をはじめとした国際会議の企画運営や、各国要人の表敬訪問の対応等を通じて、国際社会との連携を推進しています。

私が所属する人物交流係は、欧州・北米・豪州に関する業務を担当しており、担当国の大使や要人による大臣への表敬訪問の対応、二国間会議の企画運営のほか、人的交流事業として、フルブライト奨学金事業や教職員の国際交流事業等を担当しています。また、日常的に外務省や在京各国大使館ともやりとりがあり、日々、担当地域との連携・協力関係の構築に努めております。



日米フルブライト交流計画
70周年記念式典の様子



G7富山・金沢教育大臣会合 バイ会談の様子

文部科学省で働く魅力

2023年に、G7教育大臣会合が富山県及び石川県で開催されました。私は、主担当となるG7教育大臣会合準備室の所属ではありませんでしたが、G7の国々を担当していることもあり、大臣会合本体に付随して行われた二国間会談（バイ会談）の準備と当日対応を担当しました。

バイ会談の対応を通じて、各国においても日本と共通の教育課題を抱えており、それに対する各国の取組についてお互いに学び合うことが重要だと思いました。教育施策のほとんどが国内向けである一方、国際社会と連携することの意義を大いに実感しました。

また、国際課での業務は、主に対国外の業務になりますので、日本政府全体の方針を意識したり、国際社会から見た日本というものを考える機会が多くあります。そういった大局的視点を持つことは重要だと思ひますし、今後、どこに所属したとしても生かせることだと思ひています。こういった形で、各国政府とも関わりながら、大きな視野で、日本国内における教育施策のより良い方向性を考えることができるのは、文部科学省で働くことの魅力であると思ひます。

1週間のスケジュール

月 | 在京大使館との連絡調整

大臣への表敬訪問の申入れがあった際には、スケジュールの調整や会談時の話題の調整等、大使館の担当者と綿密にやりとりをします。

火 | 表敬訪問当日に向けた資料作成

省内の関係局課と協力し、表敬訪問当日へ向けて資料を作成します。先方とのこれまでの協力関係や今後の協力について期待することを整理します。

水 | 大臣への事前説明

作成した資料について、大臣へ事前の説明を行います。大臣への説明は上司が行うので、資料配布やメモとりで同席します。

木 | 表敬訪問当日の対応

係で役割分担をし、先方の案内や会談中の写真撮影等について対応します。

金 | 記録の作成及び
文部科学省公式 SNS への掲載

会談の内容について、記録を作成するとともに、会談の様子を文部科学省公式 SNS に掲載します。このようなハイレベルの面会を通じて、さらなる協力が進むようフォローしていきます。

文教施設 企画・防災部

文教施設の整備を通じて、日本の“教育、科学技術・学術、スポーツ、文化”を支える



参事官（施設防災担当）付
施設防災企画係長
（併）風水害対策係長

勝又 真理子

Katsumata Mariko

平成 28 年 入省（建築）
平成 28 年 4 月 文部科学省大臣官房
文教施設企画部参事官付
平成 30 年 4 月 同 施設助成課
平成 30 年 10 月 大臣官房文教施設企画・防災部
施設助成課
令和 3 年 3 月 同 施設助成課技術係主任
令和 3 年 4 月 神奈川県横浜市教育委員会事務局
総務課担当係長
令和 5 年 4 月 現職

日本の未来をつくる仕事で建築の専門性を活かす

仕事の紹介

私が現在所属している文教施設企画・防災部では、学校をはじめとする文教施設（教育、研究、スポーツ及び文化施設）の施設整備に関する取組の支援・推進を行っています。学校施設は未来を担う子供たちの学びの場であり、また、地域住民の避難所にもなるとても大事な施設です。また、学術研究においては知の拠点ともなり、我が国の未来を支える施設とも言えます。

未来を担う子供たち誰もが、安心して安全な学習や生活ができる場所があるということは、当たり前のように、実はとても重要なことです。しかしながら、現在多くの学校は老朽化等により安全面や機能面で課題を抱えており、さらに学びのかたちは社会の変化やGIGAスクール構想の実現など、技術の進歩と共に変化を求められています。

現在の私の仕事は、参事官（施設防災担当）付という部署で、学校施設の水害対策のための手引の作成や、防災対策セミナーの実施、災害時には省内の支援を行っています。



外国政府への防災対策に関わる説明会の様子



学校施設の防災対策に関するセミナーの開催について説明する様子

志望動機と現在

日本の未来をつくる仕事がしたいと思い、文教施設企画・防災部を志望しました。

これまでの業務内容ですが、文教施設企画・防災部では、文教施設の建築、整備、維持管理など幅広い分野での仕事に携わりました。また、文教施設づくりへの技術的支援として、オリンピックパラリンピック選手用のトレーニングセンターをはじめとした様々な施設整備に関わりました。さらに、公立学校施設の整備に必要な事業費の一部を補助するための制度づくりも担当していました。

現在は、学校施設等の防災・減災対策の推進に関する業務を行っています。

文部科学省で建築の専門性を活かすというのは、なかなかイメージしづらく、また、少ないのではないかと恐れがちですが、実際は活躍できる場はとても多く、またやりがいもあります。これからの日本をつくる大きな仕事を一緒に進めていきましょう。

年間スケジュール

避難所となる公立学校施設の防災機能に関する調査結果が公表されるまで

- 1 **調査準備（2022年12月）**
これまで実施した調査結果を踏まえつつ、現在必要な情報が何か、考えながら調査の準備を行います。
- 2 **調査実施（2022年12月）**
各自治体へ調査を発送します。調査に関する質問などを自治体から受けます。
- 3 **集計・確認（2022年12月～2023年3月）**
各自治体からの回答をまとめます。不備等があった場合は、自治体に確認を行います。
- 4 **公表（2023年7月）**
調査結果についてHP等で公表します。また、問合せなどの対応も行います。